

## <ラウンドテーブル報告1>

### 大学教育における初等教育内容の適用性 —初等教育の教科書を通じて—

【企画者】清水洋一(東京都公立小学校)

【報告者】松澤秀祐(日立プラント建設)

秋元庸博(フリーライター)

#### 1. 議論の発端

初年次教育では、基礎・基本のリテラシーとして読み・書き・話す・聞くなどが中心である。それは、大学生活または社会人になってからの企画書・報告書などの書き方にも応用でき、大変有効なものとなることは言うまでもない。今現在も、また従来からもこの基本リテラシーについての重要性は、指摘されてきた。

しかしながら、このような基本リテラシーについては、初等教育において教育されており、そのテキストを利用して学習者が今までに学んだ体験的な技能や知識を繋ぎ合わせることが、初年次教育には重要であると考えられる。そうすることにより学習者は、小・中・高等学校そして大学と学んできた技能には連続性があると実感でき、学習の意味や意義を見出せるからである。

そこで本ラウンドテーブルでは、初等教育で使用されている教科書や指導書をたたき台にして、初年次教育に適用可能性のある事柄について議論していきたい。

#### 2. 小学校の教科書

まず、小学校で使用されている教科書は、各学校で決定するわけではなく、文部科学省の検定を通過し、認められなければならない。そのような検定を通過した教科書は、現在の学習指導要領に準拠したものであることは言うまでもないことであり、子どもの教育内容にも相応しいものとされている。

しかし、このような内容が大学教育にも適用できるか、どうかである。

その中でも今回は、国語の教科書を選定して検討する。その理由は、国語は小・中・高・大と一貫して社会人に必要な「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」ということが示されており、普遍的な学習内容だと考えるからである。

#### 3. ラウンドテーブルで話し合いたいこと

今回のラウンドテーブルでは、これらのことについて国語の教材を検討することにより、その適用可能性を考えていきたい。

ラウンドテーブルの話し合いは、どの観点からでも行われてよいと思うが、いくつかの観点をあげ、参加者にも議論に積極的に加わっていただきたい。

(1)国語の教材は、初年次教育を受ける学習者たちの興味・関心を植えつけるものになっているか。

(2)国語の教材のどの部分が、初年次教育と相似しており、より深く学習者たちの理解を促進することができるか。

(3)小学校の教科書を検討することにより、小・中・高等学校そして大学と学んできた技能には連続性があると実感でき、学習の意味や意義を見出せるか。

#### 4. 留意点

当日、参加者には教科書の一部を抜粋した資料討議のためにワークシートを渡しました。

### 参考文献

- 秋田喜代美・佐藤 学 (2006)『新しい時代の  
教職入門』有斐閣
- 学習技術研究会(編著) (2006)『改訂版 知へ  
のステップ』くろしお出版, pp.1-14.
- 絹川正吉 (1995)『大学教育の本質』ユーリー  
グ
- 佐藤 学 (2004)『教育の方法(改訂版)』放送  
大学教育振興会, pp.127-135.